

日本手話の関係節

遠藤栄太

(香港中文大学)

日本手話は、日本のろう者が日常生活で使用する言語である。日本手話には、これまで研究者により「関係節」と呼ばれてきた構文があり、一般的によく使われている。ただし、その詳細に関する研究はまだ多くはない。日本手話の関係節構文に関してより良い理解を得るため、次のような形でデータを収集した。まず、日本手話話者に、関係節構文の出現を促すような内容の絵を何枚か見せ、その内容について語ってもらった。次に、話者それぞれにとってなじみのある内容のテーマについて語ってもらった。これらのテーマとは、「これまでの旅行の中で一番楽しかった事は?」、「ろう学校で最も感銘を受けた経験は何でしたか?」、「今、いちばん興味を持っていることはなんですか?」といったものである。すべての発話は映像として収録し、ELAN を用いてアノテーションをつけた。分析にあたっては、NMN がどのように出現するか、に特に注意を払った。その結果、日本手話の関係節にはふたつの種類があることがわかった。ひとつは、これまで先行研究でも扱われてきた、名詞句の前に現れる主要部内在型の関係節である。加えて本研究で見いだされたもうひとつの関係節構文では、頭の動きや瞬きなどのNMM が関係節構文に関与している。本研究の結果は、日本手話の文法をよりよく理解するために役立つと考えられ、ひいては、日本手話教育や通訳者養成にも役立つはずである。